

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部 4年

参加プログラム: NUS2 派遣先大学: シンガポール国立大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(未定)

派遣先大学の概要

シンガポール国立大学(NUS)はシンガポール最高峰の総合大学で、世界大学ランキングでもアジア上位に位置しています。広大なキャンパスを有し、留学生の割合が高い国際的な大学です。

参加した動機

昨年東大で IARU のコースを受講し、世界各地からの学生と交流することができて非常に楽しかったこと、海外からの学生たちが日本滞在をとっても楽しんでいたので、今度は自分が海外に行ってみたく思ったのがきっかけです。コースは以前から興味があった「アジアの都市化」に重なるものがあったので、それを選びました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

興味があるプログラムについてIARUのホームページなどでよく調べておくといと思います。また、提出書類は多いので、書類提出に関するメールを受信したらできるだけ早く提出するようにしていました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請についても派遣先大学からメールで情報もらったので、それに従って準備していました。紙媒体で提出するものもあるので、しっかりとメールに目を通す必要があります。ただ、ビザ発行元のホームページを見てもわからないこともあったので、その場合は大学の担当の方にメールで質問したりしました。わからないことがあったらメールで聞くのがいいと思います。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大で指定された保険に加入しました。それ以外の保険には加入しませんでした。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

今学期は学期末に試験がある授業を履修しませんでした。ただ、先生にご相談すれば試験の日程や方法を調整していただける可能性はあると思います。また、学科の先生方をお願いして、必修の授業の発表の日程をプログラム後にずらしていただきました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

昨年12月にTOEFL95を取得しました。登下校の電車の中で英語の教材を聞くなどして勉強していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

プログラム中はできるだけプログラムに集中できるように、他のことはできるだけ済ませておくといと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私が参加したのは、「Asia now! The Archaeology of the Future City」というプログラムでした。シンガポールをメインとして、アジアの様々な都市を舞台に、都市化の理論や大都市の抱える問題、可能性など、さまざまなテーマについて学びました。社会学をベースに建築や哲学などのアプローチで、じっくりとアジアの都市の歴史・現在・未来について考えることができるプログラムでした。

月曜から木曜にプログラムがあり、そのうち3日ほどは授業、他1日はフィールドトリップや見学などでした。1日の授業は3時間で、学生全員(16名)で受けるレクチャー2時間、8名ずつに分かれて行うディスカッション1時間という構成でした。学際的なコースですが、先生のバックグラウンドは社会学で、社会学的なアプローチによる授業でした。毎回の授業に論文を3本ほど読んで臨むというスタイルでした。その他の課題としては、リーディングに関する500~800字のレポート2本、フィールドトリップに関するレポート2本、3000字の最終エッセイ、グループプロジェクトがありました。

②学習・研究面でのアドバイス

プログラムが始まるとゆっくり考える時間がないので、事前に参加の目的、目標等を明確にしておくといと思います。

す。

③語学面での苦労・アドバイス等

日常会話やレクチャーでは大きな不自由を感じなくても、ディスカッションやディベートとなると相手の言っていることを理解した上で、自分で考え、それを英語で述べなければならぬので、なかなか自信を持ってなかつたり、タイミングをつかめなかつたりしました。しかし、発言することで授業に貢献し、新しい視点を提示できたり、逆に問題を指摘されたりするので、毎回のディスカッションで何も言わずに終わることがないように気をつけていました。また、リーディングやライティングの課題をこなすのに時間がかかったので、もっと早く正確に読み、正確な英語を書けるようになりたいと思いました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮を指定されました。スイートと呼ばれる大きな部屋に6つの個室(机・ベッドなど)があり、シャワーとお手洗いを共有する形でした。スイートには同じプログラムの学生が生活していました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日差しが強く、湿度が高く暑いので、帽子や日焼け止めを用意しておくといいと思います。お金に関しては授業料や宿泊費を支払うとクレジットカードの利用上限金額に達してしまうことがあるので注意が必要です。現金もあると安心だと思います。また、飲料水のサーバーが寮にあったので、毎日ペットボトルを買う必要はなく便利でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シンガポールは治安がいいので日本にいたときと同じような感覚で過ごしていました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

合計額は29万円弱でした。(航空券5万5000円、授業料12万円、寮費8万円、教科書は特になし、食費4万5000円、交通費1万5000円、娯楽費(週末の旅行含む)2万5000円、書籍・土産など5000円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから10万円、Santander銀行から10万円の計20万円支給していただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

時間がある週末を利用してシンガポールの中でも自然が残っている島に行ったり、マレーシアのマラッカに行ったりしました。現地の学生におすすめの場所を聞いてできるだけいろいろな場所を訪れるようにしました。また、日本にいるときに訪問先の大学について調べておき、プログラムを提供している組織の研究者の方にメールを出したところ、現地でお会いしお話しすることができました。興味がある研究をしている方がいれば、連絡してみるといいかもしれません。毎回の昼食や夕食はクラスメイトといっしょにとっていました。そのときにいろいろな話をできたのも楽しかったです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学に関しては特にサポートはありませんでしたが、手続き等に関してはこまめにメールで情報を送ってサポートしていただきました。提出したレポートは先生がコメントして評価して返却してくださったので、勉強になりました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館やデータベースを使うことができました。スポーツ施設やプールも無料で使えるようです。食堂(フードコート)にはアジア各国の料理があり充実していました。寮の部屋にはWifiがなく、ケーブルで接続していましたが、Wifiが使えるラウンジもありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

コースは主に社会学的なアプローチでアジアの都市を考えるものだったため、都市工学という工学の立場から都市を学んでいる私にとっては、別の視点を獲得ことができ、貴重な経験になりました。毎回の授業を通し、批判的態度が養われたと思います。レクチャーとディスカッションにあたっては、指定される論文を3、4本読んで臨む必要があり、英語の論文を読む練習になりました。エッセイを書く機会も多く、先生が添削してくださるので、自分の考え方の甘さや表現の未熟さ、英語表現の課題などを痛感し、自分の英語におけるアカデミックスキルを高めていく上での課題が見つかりました。その他に、理想の都市を構想するというグループでのプロジェクトがあり、このプロジェクトを通してバックグラウンドの異なる学生と意見を交わし深く議論することができ、非常に勉強になりました。

このプログラムでは1か月の間シンガポールに滞在することができたので、さまざまな場所を自分の目で見に行くことができました。また、1か月の授業や現地の学生との会話を通して、シンガポール社会が抱えている問題も少しずつ見えてきました。社会は制度によって大きく変わり、所変われば日本とは違う課題があるということを実感しました。一方で、日本とシンガポールに共通する課題も見えてきました。1か月という短い期間ではありますが、海外に住むという経験によって社会の多様性を実感することができました。授業だけでなく、世界各地から集まる学生と共に学ぶ中で、大学における授業の方法の違い、教育システムの違いや進路選択システムの違い、大学卒業後の進路など、学

び方や生き方の多様性も知ることができました。海外に素晴らしい友達ができただけにも非常に感謝しています。

②参加後の予定

必修の授業の発表と院試の準備をします。大学院に進学予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しでも興味があれば、英語の試験のスコアを早め取得しておくと思えます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東京大学 海外留学・国際交流情報サイト(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/index.html>)

訪問先大学のホームページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部(前期)文科一類 2年

参加プログラム: IARU GSP

派遣先大学: National University of Singapore(シンガポール国立大学)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要 大学ランキング等で東大と並ぶ高評価を受けているアジアのトップ大学で、シンガポールから多額の財政援助がある模様。設備は全て整っており、大学それ自体はシンガポールの地理的位置の影響もあって非常に国際的な多様性に富んでいる。一方で学問レベルにおいては東大と大差はないように感じた。とりわけ今回参加したコースは非常に一般教養的なコースであったため、十分東大前期教養との比較が容易であったが、アカデミックな部分に関しては東大の方が純粋に上回る一面もあると感じた。

参加した動機 単純にシンガポールという国自体に並々ならぬ興味があったため NUS で行われるプログラムに応募した。個人的に都市地理学に興味があったため、urban planning に関連したこのコースを選んだ。無論、アカデミックな動機同様に自身の英語力向上(とりわけスピーキング)と国際交流にも関心があった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

基本的に全て NUS からメールで手続きが送られてくるので従っておけば問題はない。私は度々締切日を忘れて NUS 側に迷惑を掛けてしまったがとても親身に対応してくださった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ICA という機関で student pass を発行する必要がある。これに関してもメールが送られてくるのでそれに従えば良いのだが、現地で ICA の建物を訪れて手続きをする必要があるため、要求される書類を日本で確認してプリントアウトしておくのが望ましい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特にないが、強いて言えば森のなかを歩くようなフィールドワークがあったのでデング熱対策として長袖の衣服や虫除けスプレーを持参すると無難かもしれない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 東大から要請された保険に入った。心配ならばクレジットカード付帯の保険を活用するとよいかもしい。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 教養学部は留学に関して“学部として特別な処置は一切認められない”という大変寛大な処置があるため、これは不安要素であった。プログラムの期間が2S セメスターのテスト期間と被っていたため必修であった英語とフランス語に関してはそれぞれ指導教官からレポート等の特別措置を頂いた。また出席が必要なスポ身等についても特別に欠席を許可させてもらった。これらの処置はあくまで各教官の個人的な裁量に基づくものであり、決して学部として特別措置が受けられるわけではなく、仮に0不可となっても文句は言えないので教養学部二年で参加を考えている方はよく考慮して欲しい。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 2月頃受験した TOEFL は93点であったが、渡航前より懸念していたのはスピーキングであった。一応の対策として BBC のラジオ等を日常的に聞いてはいたが実際に現地に行くと、綺麗なブリティッシュイングリッシュばかり聞いていてもあまり効果はないように感じた。英語のトーク番組等をリスニングするのが効果的かもしれない。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど シンガポールの場合は最悪現地で何でも買えるので問題ないと思われる。必要だと思ったのはコンセントの形状が違うので変換プラグと医薬品関係である。医薬品に関してはシンガポールで買うことはできないので、常用している場合は胃腸薬や頭痛薬など持参すると役立つことがある。変圧器に関しては使用せずに特に電子機器類に異常はなかったため必要ないのではないだろうか。不安ならば持参することを推奨する。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 都市計画がキーワードとなる授業だった。形式としては事前に reading(一回の授業につき数十ページの英文)を読み、lecture が2時間弱行われ、その後 reading の内容に関連して discussion が行われた。勿論通常の講義以外にも数回の plenary(講演会のようなもの)と数回の field work が楽しかった。

②学習・研究面でのアドバイス 英語の長文を読むのに終始苦労した。内容自体は特に難しいものではなかったため、特に都市地理学等に関する専門知識は必要ないと思う。ただ NUS の生徒が大半を占めていたため、よくディスカッションやレクチャーにシンガポールの事例が出てきた。私はシンガポールに住んだことがあるため知っていることも多かったが、何も知らない人は事前に HDB など基本的なシンガポールの都市計画について(wikipedia を見るぐらいでも)簡単に調べておくと理解がスムーズかもしれない。

③語学面での苦労・アドバイス等 語学面ではとにかく苦労の連続だった。東大生の平均的な英語力を考えれば、恐らくリスニングとスピーキングの面で苦労することになると思う。とは言うものの大半は慣れの問題であり、私も当初は

聞き取れない部分ばかりで全く発言できなかったが、最後の方は一応議論に参加しようという意思は見せられる程度の英語力になったのではないかと思う。授業以外でも色々な学生と交流することで英語力も改善されていくので積極的に他の生徒と会話することも重要なと感じた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) Tembusu college という college に宿泊した。部屋は一応個室だが、6人 suite で風呂・トイレは共有だった。洗濯機や冷蔵庫は2階下のフロアにあり少々不便だった。部屋は決して広くないが、エアコン・本棚・机・椅子・ベッド等最低限のものは備えていた。家賃は1ヶ月で日本円にして8万円弱だったと思う(食事なし)。住居に関しても NUS が提供してくれるため手続き等は NUS からのメールに従えばよい。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 熱帯雨林気候下にあり、湿度と気温はどちらも年中高い。日本の8月と全く同じであった。ただ室内はもれなくエアコンが効きすぎているのでカーディガンを持っていくと便利だった。宿泊先と教室はほぼ併設されており、UTown という地区の一角をなしている。UTown にはフードコートやコンビニ・カフェなど基本的なものは全て揃っており、日常生活はその中で完結できる。一方で市内に出るには少々面倒で、大学のバス(30分に1本程度で時間が読めないが無料)を使って Kent Ridge 駅に出るか、一般のバス(15分に1本程度)を使って Clementi 或いは Buona Vista 駅に出るか、Dover 駅まで歩く(徒歩約15分)しかなかった。どのルートを使っても市内中心部に出るには1時間弱かかる。ただシンガポールは交通機関が全体的に日本よりは安いのでバス等も気軽に使える。EZ Link カードというまさに Suica のようなカードを予め MRT の駅で買っておくと便利である。食事に関しては UTown のフードコートで多くの食べ物が一食500円弱で提供されており、もっぱらそれを利用した。市中に出てもホーカーセンターというフードコートのような施設があり、そこに関しては大学のフードコートより安く食べられた。自炊は前述したようにキッチン等が2階下のフロアにあったが、行っている人は殆どいなかったように思う。お金の管理方法であるが、滞在期間が1ヶ月と短かったので日本から生活費分を日本円で持参し、現地で両替した。また、VISA と JCB のクレジットカードを持っていたので何回かキャッシングを利用しシンガポールドルを引き出した(JCB は殆ど使えないと考えたほうがよい、VISA と Master が主流)。食費や交通費は安い、tuition fees と accommodation fees を現地でクレジットカード支払いする必要があるので注意。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 日本より安全なので何もしない。唯一気をつけたいのはデング熱である。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 留学が決まった時点で航空券を抑えたため ANA 直行便が往復で48000円程度だった。授業料や住居費は全てまとめて約2000シンガポールドル(20万円弱)だった。食費や交通費は計算していないが、日本よりは安い。一方でクラスメイトと出かけたりとお金を使う機会は日本より増えるので多めに計算して間違いはないと思う。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 奨学金付帯だったので無条件に10万円を大学から頂いた。また JASSO 奨学金を10万円受給し、ほぼ授業料と家賃を賄うことが出来た。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) ジムとプールが使い放題だったためたまに利用した。週末はリーディングに追われる週末もあったが、クラスメイトとナイトクラブに出かけたり、マレーシアのマラッカに旅行に行ったりと充実した過ごし方ができたのではないと思う。またプログラム後半からなぜかカードゲーム大会が我々の suite で開かれるようになり、大富豪によく似たトランプゲームで毎晩のように盛り上がった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 東大の大規模な縦割り組織とは違って非常に小規模で柔軟な組織で、大変親身になって相談に乗ってくれた。仮に困ったことがあれば担当の人に相談すると良いと思う。また、NUS の生徒も大変親切で我々を色々なところに連れて行ってくれたり、大学施設を案内してくれたたりした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 概ね東大よりも整っており、1ヶ月だけの exchange student のために student card を発行してもらったのでほぼ全ての施設を利用することができた。一方で唯一の不満が、自室内で無線 LAN を使うことができなかった点である。LAN ケーブルがあり、有線 LAN で接続することは可能なので、仮に無線 LAN 環境が欲しければ無線 LAN 親機を買えば良いと思う(mac に関しては標準で装備されている気がする)。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 日本ではなしえない体験の連続でいろいろ学んだことはあったが、個人的にこの留学の意義として見出したものは、自分自身あるいは日本というものを外面化できたということである。やはり、このプログラムに参加して様々な国の人々と交流するうちに、他国の文化や価値観というものを感じ取るうちに、日本のどのような点が特異かということがだんだんわかるようになってきた。無論これに関して日本の方が良いとか外国の方が良いとかいう下らない価値判断を下す気はないが、その差異を実感できたことだけでも意義となりうるものだと思う。もう一つは英語力の向上である。まがりなりにも英語で一日の大半を過ごし、コミュニケーションのツールとして使っていたために、英語を使うということに対する恐れのようなものがなくなったように思う。とりわけ語彙の向上等を実感したことはないが、文字通り英語に“慣れ”ることができたように思う。

②参加後の予定 夏にも海外大学との合同 summer institute に参加する予定であり、積極的に英語を使って海外の大学等とかかわっていきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 教養学部二年の夏学期はとても暇になると思うので、進振りに追われていない人は東京で無為に過ごすのではなく少しチャレンジな環境に身を置くのも面白いし決して無駄にはならないと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 Go Global

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

